

平成26年度病害虫発生予報第11号

平成27年 2月 2日
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 (発生を認めていない) 2月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並が多い	± ±～-
	灰色かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並が多い	± ±～-
ナス (施設)	すすかび病	やや多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は平年並が多い	+ ±～-
	灰色かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並が多い	± ±～-
	ミナミキイロ アザミウマ	少ない	県全域	1月下旬の発生量は少ない	-
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	1月下旬の発生量ははやや多い 2月の日照時間は平年並が多い	+ ±～-
	うどんこ病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	-
	灰色かび病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間は平年並が多い	- ±～-
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	-
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は平年並が多い	± ±～-
	うどんこ病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い	+

・防除対策

〔ナス（施設）・すすかび病〕

過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意しましょう。暖房機の運転による湿度の低下が期待できないときは送風を行いましょ。カンタスドライフロアブル、スコア顆粒水和剤、ポリオキシシAL水溶剤などを使用し、ローテーション防除を心がけましょ。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど必要以上に湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意しましょ。ベトファイター顆粒水和剤、ザンプロDMフロアブルなどで防除しましょ。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

12月1日発表の「平成26年度病虫害発生予察注意報第5号」を参照してください。

・留意事項

タマネギ白色疫病の発生が確認されています。ほ場を良く観察し、初発を確認したら速やかに防除を行いましょ。

キャベツ菌核病は、発病株上に形成された菌核が次作の伝染源となるので、被害残さを集めてほ場の外へ持ち出し、適切に処分しましょ。

果菜類の灰色かび病は、施設内が多湿になると発生が増えます。過湿にならないように、施設内の換気や送風を行いましょ。また、本病は発病果や発病葉が伝染源となるので、見つけ次第取り除いて処分しましょ。

トマト黄化葉巻病の発生は平年並ですが、今後、気温が上昇するとともに、本病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの発生量が増加して、本病の発生が増えることが懸念されます。タバココナジラミの発生に注意して、防除を徹底しましょ。発病株は伝染源になるので、見つけ次第適切に処分しましょ。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台1月29日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：40% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%